



旧古河庭園

- 開園年月日
昭和31(1956)年4月30日
- 開園面積
30,790.86㎡
- 開園時間
午前9時～午後5時
(入園は午後4時30分まで)
※イベント開催期間にて開園時間の変更が行われる場合があります。
- 休園日
年末年始(12/29～1/1)
※特別の事由上、9月12日～25日(2024)、9月10日(2025)
- 無料公開日
みどりの日(5月4日)
憲法の日(10月1日)
- 開園ガイド(無料)
土、日曜日、祝日
(午前11時と午後2時の1日2回)
- 【お問い合わせ先】
旧古河庭園サービスセンター
☎03-3910-0394
〒114-0024 東京都北区西ヶ原1-27-39

スタンプ欄

入園料	個人	団体 (20名以上)	年間パスポート (旧古河庭園)	年間パスポート (旧園地共通)
	一般	150円	120円	600円
	65歳以上	70円	50円	2,000円

無料
小学生以下及び都内公立・私立の中学生
身体障害者手帳、盲の手帳、精神障害者保健福祉手帳
または療育手帳持参の方に対する方

旧古河庭園「六義園」入園料換券 400円

洋館見学	洋館見学者 625円
	洋館 希望 管理 (公財)大宮事務所 ☎03-3910-8440

※洋館建物内の見学は、団体から申し込みによる事前の申し込みが必要です。
※旧古河庭園入園料が別途必要となります。※詳細については、お問い合わせください。



【交通のご案内】

【電車】
JR池袋駅有楽線
【上中環】下車徒歩7分
東京メトロ有楽線
【西ヶ原】下車徒歩7分

JR山手線
【駒込】(北口)下車
徒歩12分

※自転車は持ち込まず。

六義園正門まで 徒歩10分
池袋門まで 徒歩12分

【公園へ行く】 池袋駅西口から徒歩10分
池袋駅西口から徒歩10分
池袋駅西口から徒歩10分
池袋駅西口から徒歩10分

文化財庭園へご来園の皆様へ

都立庭園は、江戸、明治、大正時代から続く歴史・文化・自然を兼ね備えており、いずれも国や都の文化財に指定されています。震災や戦災、進む都市化の中で残された貴重な存在であり、この貴重な存在がよりよい状態で後世に残るよう、皆様にご理解とご協力をお願いいたします。

【園内からのお問い合わせ】

- ペット(動物)を連れてのご入園、園内の動物の採集、動物の利用、遊憩の妨ごみはご遠慮ください。
- 喫煙は園の指定した場所でお楽しみします。
- 写真撮影、写生は建物・添景物保護のためお断りする場所があります。
- 文化財は定期的な保存修理工事を要することがあり、一部ご観賞いただけない部分があります。

- 都立文化財9庭園
- 浜離宮恩賜庭園
 - 沼之倉宮恩賜庭園
 - 小石川後楽園
 - 六義園
 - 旧岩崎邸庭園
 - 向島百花園
 - 清澄庭園
 - 旧古河庭園
 - 麹ヶ戸庭園



旧古河庭園

Kyū Furukawa Gardens

和と洋が調和する大正の庭

豪壮でおしゃれな建物、 和洋の庭、大正の息吹に触れる心地よい空間。

武蔵野台地の斜面と低地という地形を活かし、北側の高い丘には洋館を建て、斜面には洋風庭園、そして低地には日本庭園を配したのが特徴です。この土地はもと明治の元勳・陸奥宗光の邸宅でしたが、宗光の次男が古河財閥の養子になった時、古河家の所有となりました(当時の建物は現存していません)。

現在の洋館と洋風庭園の設計者は、明治から大正にかけて、鹿鳴館、ニコライ堂、皇宮御所庭園洋館などを手がけ、日本の建築界の発展に多大な貢献をした英国人建築家のジョシアク・ロンドン(1852～1920年)です。日本庭園の作成者は、京幕の庭師・横治と小川治兵衛(1860～1933年)で、洋風庭園にも勝るとも劣らない魅力的な名園を造りあげています。旧古河庭園は、大正初期の庭園の原型を留める貴重な存在であり、平成18(2006)年1月26日に「旧古河氏庭園」(文化財指定名称)として国の名勝に指定されました。

いしづく ようかん 石造りの洋館 (大谷美術館)

英国貴族の邸宅になった古典様式で、天然スレートぶらメンが造り、外壁は真鍮製の赤銅色をおびた新小松石(安山岩)で覆われており、雨にぬれると落ち着いた色調をからしめます。



ようふうてい かん 洋風庭園

クラシックの庭園に植えられたバラは、春と秋に異なり大輪の花を咲かせ、洋館の風情を彩って異国情緒を濃密させてくれます。秋篠宮家の長女-眞子様のお印「モッコウバラ(木香菜)」が石垣をびっしりと覆っています。



にほんてい かん 日本庭園

日本庭園の中心は心字池。優雅な曲線が心を癒します。大滝、枯滝、大きな雪見灯籠が周囲の緑に映えて、この庭の風情をいっそう深いものにしています。

かれたき 枯滝

水を使わずに山水の景観を表現する「枯山水」の道具立てのひとつが枯滝。心字池の河原の裏の溪谷の水溜として枯滝石組がめあります。

しんじいせ 心字池

「心」の草書体を形取り、鞍馬平石や伊予青石などで造られた池。池を囲む要となる「舟着石」がめあ。正面には「竜橋」、雪見灯籠、枯滝、石組み、そして背後には築山が見られます。

たき 大滝

十数mの高所から落ちる滝。園内のしっとり均配の豊かな所をさらに潤って新緑とし、濃い樹林でおおって深山峡谷の趣がめあります。曲折した流れから始まり、数段の小滝となり最後は深い滝つぼに落ちるという変わった造りです。



景色も奥戸平水湧き出している大滝

車いすルート

車いす利用可ルート(要介助者)